

1. 科目名 (単位数)	図画工作科指導法 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP2395
2. 授業担当教員	井戸川 敦		SJMP2295
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	図画工作科教育の目標、育成を目指す資質・能力、「造形的な見方・考え方」を働かせる学習内容及び学びの方法についての概説や具体的な事例を通して、学校教育（公教育）で美術教育がおこなわれる教育的意義について理解を深めていく。併せて、授業分析や授業デザインの演習、模擬授業を通して、授業の組み立て方や評価規準設定の視点、指導案の書き方、指導方法について習得を目指す。		
8. 学習目標	1.図画工作科の目標及び育成すべき資質・能力や学習内容を理解し、その特質と教育的意義を説明できる。 2.造形表現の発達段階及び学習者の多様性について理解し、子どもの実態に合わせた指導について考えることができる。 3.図画工作科における主体的・対話的で深い学び場づくりについて理解し授業設計することができる。 4.学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができる。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 年間スケジュール・学習指導案の作成 2. 作品提出 3. 授業における取り組みの成果の発表を行う時間を設ける。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 宮脇理 監修, 福田隆真他編著『美術科教育の基礎知識』建帛社 【参考書】 東京アカデミー編『2022 年度教員採用試験対策参考書小学校全科』七賢出版 槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省 造形授業研究会編『図工の授業をデザインする』東洋館出版社 (上記参考書は授業の進行に伴い適宜資料として提示する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。) 【教材】 制作道具・材料についてはオリエンテーション時や事前の授業で指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1.図画工作科の目標及び育成すべき資質・能力や学習内容を理解し、その特質と教育的意義を説明できるか。 2.造形表現の発達段階及び学習者の多様性について理解し、子どもの実態に合わせた指導について考えることができるか。 3.図画工作科における主体的・対話的で深い学び場づくりについて理解し授業設計することができるか。 4.学習指導案作成上の留意点を理解し、自ら選択した題材について学習指導案を作成することができるか。 ○評定の方法 授業内の課題…30% ポートフォリオ…40% 最終課題…30%		
12. 受講生へのメッセージ	1. 単なる知識や方法・技法の伝達だけにとどめず「造形表現の良さや素晴らしさ」を、こどもたち一人ひとりに伝えていけるような教員になってほしいです。日常生活の中での様々な出来事に興味関心を持ちながら、豊かな感性とところを養っていきましょう。 2. 学習においては、指示されたノルマやプログラムに頼るのではなく、創意工夫、試行錯誤を試み、自己の責任で判断していく習慣を身につける『造形学習の本質』を体験しながら実社会で役立つ力を養ってください。 ※授業日程は進行状況によって調整する場合があります。		
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等 (メールなどで事前にご連絡ください)		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 (講義+演習)	事前学習	教員採用試験対策参考書 pp.492-493 を読む。 また、「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか、これまでの学習経験のふりかえり印象深かった出来事について考える。またそれを踏まえ、自身が教員になった際、子どもたちが豊かに制作できる環境設定を考える。
		事後学習	自身のこれまでの制作活動を振り返り、考えたこと感じたことをまとめる。
第 2 回	◇ 「図画工作科」は何を学ぶ教科なのか 子どもの具体的な姿から考察する (講義+映像鑑賞)	事前学習	学習指導要領解説 pp.9~16 を読む。
		事後学習	学習したことを、各自ノートにまとめる。
第 3 回	◇ 図画工作科の歴史の変遷と内容概観 目標、資質・能力、教科内容、カリキュラム構造、 評価規準、教育的課題について (講義+演習)	事前学習	学習指導要領解説 pp.6~8、美術科教育の基礎知識 pp.52~53 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第 4 回	◇ 造形表現領域の発達段階の理解と児童の個別性・多様性を保持した学習環境デザイン (講義+演習)	事前学習	美術科教育の基礎知識 pp.58~61 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。

			また、今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第5回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義Ⅰ A 表現ア「造形遊び」① (講義+演習)	事前学習	美術科教育の基礎知識 pp.62～65 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第6回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義Ⅱ A 表現ア「造形遊び」② (講義+演習)	事前学習	美術科教育の基礎知識 pp.179～180 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第7回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義Ⅲ A 表現イ「絵や立体、工作に表す」① (講義+演習)	事前学習	美術科教育の基礎知識 p.90, 95 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第8回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義Ⅳ A 表現イ「絵や立体、工作に表す」② (講義+演習)	事前学習	美術科教育の基礎知識 p.141 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第9回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義Ⅴ A 表現イ「絵や立体、工作に表す」③ (講義+映像鑑賞)	事前学習	美術科教育の基礎知識 pp.143～145 を読む。
		事後学習	これまでの制作課題を終わらせる。
第10回	◇ 図画工作科の内容と教育的意義Ⅵ B 鑑賞ア-ことば・対話・身体・感覚による鑑賞 の体験的理解と授業デザイン (講義+演習)	事前学習	美術科教育の基礎知識 p.185,175 を読む。
		事後学習	オンラインミュージアム (Google Arts and Culture) を鑑賞し、各自ノートに関心のある作家名・作品名 をまとめる。
第11回	◇ 学習指導要領Ⅰ 図画工作科学習指導要領改訂の要点 (講義+演習)	事前学習	教員採用試験対策参考書 pp.488-491 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第12回	◇ 学習指導要領Ⅱ 各学年の学習内容について① (講義+演習)	事前学習	教員採用試験対策参考書 pp.492-495(1)を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第13回	◇ 学習指導要領Ⅲ 各学年の学習内容について② (講義+演習)	事前学習	教員採用試験対策参考書 pp.495(2)-497 を読む。
		事後学習	学習したことを各自ノートにまとめる。 また、今回学習した技法を使用し作品を制作する。
第14回	◇ 年間スケジュールと指導案の作成Ⅰ 題材研究及び授業展開の構想と授業評価のあり 方 (講義+映像鑑賞)	事前学習	美術科教育の基礎知識 pp.190～192 を読む。
		事後学習	各自のノートに図画工作科指導法を経験して得た気 づき、理解をまとめる。 また、授業設計の構想を練る。
第15回	◇ 年間スケジュールと指導案の作成Ⅱ 題材研究及び授業展開の構想と授業評価のあり 方 (講義+演習)	事前学習	美術科教育の基礎知識 pp.195～196 を読む。
		事後学習	年間スケジュールと指導案を、授業設計に基づき完 成させる。